

かけはし

2020
Vol.86
November



コロナ禍でリモート生活を体験

おかげで気が付きました。
インターネット上で時間と場所を考えず、
世界中の誰とでも何人とも直接繋がる
ことができました。

一宮市国際交流協会 公式YouTubeチャンネルのご案内

2020年6月から配信中

みなさん、一宮市国際交流協会の公式YouTubeチャンネルがあるのをご存知ですか。

国際交流員のお二人、ニュージーランド出身のロティビオ・カサンドラさん（通称ドラさん）とイタリア出身のヴィニエラ・アレッシオさん（通称アレさん）が、「教えて！国際交流員」という動画のシリーズを、一宮市国際交流協会の公式YouTubeチャンネルにアップロードしています。



二人ともそれぞれ母国の大学で日本語を勉強してきたという日本通で、まだまだ勉強中と言っていますが、とても流暢な日本語を話します。

いつもは一宮市の小学校を回り、それぞれの母国、ニュージーランドとイタリアを紹介しているのですが、1学期はコロナの影響で全て中止になってしまいました。また、毎年行ってきた協会のイベント「フレンドシップフェスティバル」など、みんなが楽しみにしていた交流活動も一部中止になってしまったので、代替企画としてYouTubeでそれぞれの母国の良いところを紹介する動画を配信し、紹介しています。



手作り感たっぷりの動画は、二人がどのような内容にしようか考える所から、動画の撮影、編集など全てを行っているようで、ドラさんは、みんなの知らないニュージーランド英語（キウイスラング）を、アレさんは、イタリアの文化や習慣を中心にした内容です。

動画にはNG集もあって、お互いの失敗を責めることも無く、大笑いをしている二人の仲の良い様子や、人柄を知ることできます。

二人は、まだまだアイデアが溢れているので、これからもたくさんの動画を作って配信していく予定です。どんな動画が出来上がるのか、新作の配信が楽しみです。

ただ残念なことは、チャンネル登録者がとても少ないんです。

みなさん、ぜひ一宮市国際交流協会の公式YouTubeチャンネルを見て、チャンネル登録してくださいね。そして、動画を見た後には、いいねを送ってください。（ゆご）



ホームステイ受入れセミナー ～はじめよう！ホストファミリー～

i-ビル3F会議室 10.4

【用語解説】

ゲスト：ホームステイに参加する外国人

ホスト：ホームステイを受け入れる家庭

私たちが町で外国人を見ることは増えてきましたが、話す機会はあまり無いのではありませんか。外国人と話してみたい、そんな思いを叶えてくれるのが、短期ホームステイです。そのホームステイをはじめたい方向けに、iiaがホスト、ゲスト経験者を交えて、ホームステイ受入れセミナーを開催しました。



協会主催のホームステイを受入れるには、あらかじめ協会のホームステイグループのボラン

ティアに登録します。次に、受入れ募集があれば申し込みます。そして、協会によるマッチングを経て受入れを決定し、ホームステイとなります。

ホームステイを受入れたホスト経験談が、ボランティアの野上さんから紹介さ

れました。野上さんは初心者なのでゲストを退屈させないか等、はじめての受入れにいろいろな事が心配だったそうです。最初のゲストはベトナムの女子学生でした。受入れ対面後、すぐに夕食の食材をスーパーへ買いに行きました。食材や料理の話などしていると、思ったよりスムーズにホームステイに入って行けたそうです。今では、その時の経験がとても素敵な思い出となっていますと紹介されました。



また実際にホームステイのゲストとなった経験を、ウズベキスタンから来たハサンさんから紹介されました。まず、スライドを用いて、自国のウズベキスタンの紹介をし、次に経験談を紹介しました。ホームステイ中は、ホスト家族



にととてもたくさん質問しましたが、ひとつひとつ面倒がらずに自分の聞きたい質問に答えてもらったことが良い思い出になったそうです。ホームステイは、双方にいろいろな文化的違いがあるので、構えずに自然体で接することで、日本を理解するよい機会になったそうです。

質問コーナーでは、「我が家は子供がいる家庭ですが、受入れることは大丈夫ですか」や、「自分は单身ですが大丈夫ですか」また、「回教徒の方はハラール料理だそうです、どうすればよいか」「長期のホームステイはありませんか」等々の質問が出ました。ホームステイは、受入れ前にゲストとホストのマッチングを行いますので、その前に条件を提示しておけば大丈夫とのことでした。どうやらゲストの受入れに際して、あまり心配はいらなようです。

ホームステイのベテランの方から、大切なことは、自分の身の丈に合った方法で、自分が普段通りに生活しながらできることをすることや、家庭内のことは最初に両者で決めておく事がポイントだ、とのことでした。おもてなしの心があれば、いろいろ気遣いして観光案内したりする必要もありません。自分の日常生活通り、家庭内での生活だけでも十分国際交流ができます。習慣や常識が異なり、難しいのではと思われるホームステイも、意外にスムーズに始められると助言がありました。詳しくはiiaまで、お気軽にお問い合わせください。(ドリアン)



世界をまなぼう！グローバルサマーセミナー



YouTube 動画公開 8.28～8.31

子どもから大人まで誰でも楽しく学べる国際理解セミナーがこの夏も開催されました。

今年は感染症対策のため各講座先着20名に限って参加者募集を始めたところで、新型コロナ愛知県緊急事態宣言が発出されたため、急遽YouTubeでの動画配信（期間限定）のみ行うオンラインセミナーに変更されました。その結果、例年のように受講者同士の笑顔あふれる交流はできませんでしたが、より多くの人に視聴していただくことができました。

イタリア"アレコレ"クイズ

講師：一宮市国際交流員 ヴィニエラ・アレッシオ

旅行先としても人気のイタリアについて、国際交流員アレッシオさんから出題されるクイズの解説をひとつひとつ聞きながら理解を深めました。

まずは日本との関わりから。伊東マンショを含む4人の少年がローマに派遣されて、1585年に日本との外交関係が正式に始まりました。それよりずっと以前、ヨーロッパに初めてジパングという名前で日本を紹介した冒険家マルコ・ポーロもイタリア ヴェネチアの商人です。都市の紹介クイズでは、瀉（かた）のうえに建てられたヴェネチアは、船の交通だけでバスも車も走ら



ない、自転車での通行も禁じられているイタリアの中でも特別な街だと説明されました。

ほかにも、料理「カルボナーラ」の材料当てクイズで、ベーコンではなく豚の頬肉から作ったグアンチャーレを使った本場のカルボナーラはすごくおいしいという話や、イタリア人は1年に140億杯もコーヒーを飲むといった食にまつわる話も聞きました。



後日、今年のヴェネチア国際映画祭で日本人監督が銀獅子賞を受賞したという報道を見て、世界最古の歴史を持つ映画祭だとセミナーで紹介されていたのを思い出しました。（伏原）

ニュージーランド〇×クイズ

講師：一宮市国際交流員 ロティビオ・カサンドラ



国土の32%が国立公園という、自然豊かなニュージーランドについて、国際交流員カサンドラさんによる〇×クイズが行われました。〇×だけでなく、なぜ？と考えることで知識を深めることができました。

ニュージーランドでは蛇など天敵がないため、個性豊かに進化した固有種の鳥たちがいます。クイズに出てきたのは、カラスのように賢くて好奇心が強く、車の黒い部分をかじるいたずらが大好きなキア。世界で最も重い飛べないオウムで、人に



懐くのでマオリ族が昔ペットとして飼っていたカカポ。どちらも絶滅危惧種で国民からとて

も愛され保護されているそうです。

豊かな自然以外にも、世界で初めて「女性の参政権を認める、手話を公用語とする、8時間労働を導入する」といった様々な取り組みをし、それを皆が誇りに思っていることも知ることができました。（伏原）



不思議の国ブラジル

名古屋国際センター地球市民教室講師

講師：クラウディオ・ヴァスコネロス（蔵人）氏

ブラジルは南半球で日本から遠く約17,000キロも離れていて、私たちはあまり詳しく知らない国ではないでしょうか。今回、日本に住んで約20年になるブラジル人の蔵人さんが、「世界をまなぼう！グローバルサマーセミナー」で自国の魅力を紹介しました。



日本の裏側のブラジルは、ロシア、カナダ、米国、中国に次いで5番目に広く、日本の23倍もの国土に約2億人の人々が暮らしています。原住民、ポルトガル系、

スペイン系、そして約100年の移民の歴史を持つ日系人も住む多民族国家です。ちなみに講師の蔵人さんはポルトガル・スペイン・オーストリア・イタリア系だそうです。

そんな大きな国の北部は自然豊かなジャングルにアマゾン川が流れ、ワニやナマケモノ、ピンクイルカなど珍しい動物たちがいっぱいいます。ピラニアが住むところには、日本で見られないピラニア注意の看板が立っているそうです。現地に行ったときもし綺麗なカエルを見つけても触らないこと。綺麗な動物たちは毒を持っていることもあり、危険だそうですよ。大型の鳥の鳴き声を蔵人さんが真似て聞かせてくれました。興味深いことでは、原住民の人たちは結婚の儀式として相撲をするそうで、負けるとその年には結婚できないそうです。ちょっと困る人も多いのではと心配ですね。

リオデジャネイロは南東部にあり、アメリカの自由の女神より大きなキリスト像が丘の上から町を見守っています。世界的に有名なカーニバルは情熱的なお祭りとして知られ世界中から人々が訪れます。年末には世界一の花火大会が盛大に催されます。

セミナーではブラジルの魅力をたくさん紹介されましたが、ここでは一部だけの紹介となりました。（ドリアン）

天使が町にやってきた～世界はひとつ～

出演：劇団シンデレラ



今日は無観客公演で、団員のみなさんもいつもと少し勝手が違うようです。

開演予定30分前、出演者のみなさんの発声練習から始まりました。ステージでよく声が通るように、活舌や体を慣らしてゆきます。コロナで全員マスク着用しての練習は、見ていてとても発声し難いように思いました。そして舞台衣装に着替え、ステージで照明や役者の立ち位置を再確認したり、振り付けの最終の調整を行います。観客の人たちはいませんが、「収録カメラに向かって自分の気持ちが伝わるよう、元気いっぱい演じてください。」と、檄が飛んでいました。

物語は「生きていることがすばらしい。みんなつながっている。」と、歌でスタート。天使たちは白くてかわいい衣装に全員透明のマスクを付けています。口元の白い帯と、照明がマスクに反射して表情が見難いのがちょっと残念です。新米の天使ナチュリーが、ラグビーで興味をもった国、南アフリカへ行って友達をたくさんつくってみたいと思います。日本で一番おいしい食べ物、「味噌煮込みうどん」を南アフリカの友達に食べさせてあげたい。そんな思いの中、世界中には食べ物が十分なかったり、きれいな飲

み水が飲めなかったり、大型台風や洪水、集中豪雨などで苦しむ人々など、地球にいろいろな環境問題があることを知ります。

クイズでペットボトルが石油から作られていることも学びます。そのペットボトルが捨てられると、やがてそれが壊れてゴミになり、細かくなってマイクロプラスチックゴミとなり海を漂い続けます。魚がそれを食べて体の中に取り込み、その魚を人間が食べ、自分たちの健康を害してゆくことに気づきます。これは大変だと、捨てられたペットボトルを拾って回収しなければ、と、ゴミ拾い運動を始めました。環境についてたくさん学んだ天使ナチュリーは、真清田神社で旅の安全を祈願して、遠い国南アフリカへ旅立って行きました。

公演を終わって、リーダーのフローレスともこさんから「今年は新型コロナでフェイスマスクを付けたり、ソーシャルディスタンスをとらなければならない等、練習にいろいろな苦労がありました」と、お聞きしました。そんなことを感じさせない劇団シンデレラのみなさんは、明るい笑顔と元気で世界の環境の大切さを伝えてくれました。（ドリアン）



English Free Talk Online

～自宅にいながらにして英会話～

一宮市役所⇄⇄参加者
7.7 14:00～14:30

このコロナ禍、市役所11階の食堂で2月まで毎月開催されて来た人気のEnglish Free Talkが出来なくなりました。そこでインターネットを介して英語を話そうと会議ソフトZOOMを使いオンラインで開催されました。

初めての取り組みであり、今回の募集は、一宮市国際交流協会に所属するボランティアに限定して8名参加で試験開催されました。



開始10分前からオンライン上に集まり、事務局からの挨拶後に2つのトークルームに分かれて英語でのおしゃべりが始まり

ました。2人の一宮市国際交流員はそれぞれのルームに分かれて会話に加わり、その場の話題作り

や部屋をリードしてその場を盛り上げました。

ルームの中では、“コロナ禍での過ごし方”などの話が英語でなされました。参加者からは、「英語を話す機会がほしくて参加、コロナ禍でもいろいろな方と交流して楽しい時間を過ごすことができました。」「国際交流員の方や他の参加されている方とお話して、良い刺激になりました。」「トークルームを分割して少人数にしたのも話しやすくて良かった。」「今はコロナ禍でそれぞれが新しい状況に直面している時期なので、そんな変化や困っていることを英語で共有し合えました。」と有意義な感想を聞くことが出来ました。

今回は初めてで参加者も少なく、小部屋に分けたので、国際交流員ともじっくり英語で楽しい会話が出来たと思います。30分間という短い時間でしたが、楽しい会になりました。

協会から、次回の開催もアナウンスされ、毎月開催に向けて準備が進められています。（佐野）

お家で作ろう

世界の家庭料理

南アフリカ編

今回は2019年の「南アフリカ料理セミナー」で習った、ボボティ（ミートローフ）の作り方を紹介します。豊かな味のする、南アフリカの国民的料理です。（事務局）

ボボティ（南アフリカのミートローフ）

材料（5人分）

～ベース部分～

ミンチ肉(牛、マトン)各500g、玉ねぎ(みじん切り)小1個、おろしニンニク小さじ1、おろしショウガ小さじ1、リンゴ(5mm角くらいに切る)1/2個、アーモンド(細かく砕く)50g、レーズン(軽く刻む)50g、バター30g、カレー粉30g、ガラムマサラ5g、ターメリック10g、塩15g、パン粉100g

～上部分～

卵4個、牛乳100cc、ローレルもしくはスイートバジル

～ソース～ ※味をみながら混ぜてください

イチゴジャム100g、チキンコンソメ小さじ1、おろしニンニク小さじ1、チリパウダー少々

【作り方】

- ①バターを入れたフライパンを温め、玉ねぎを炒める
- ②ほんのり色がついたらニンニク、ショウガを入れる
- ③ミンチ肉とパン粉90gを入れてよく混ぜる
- ④カレー粉、ターメリック、塩、リンゴ、レーズン、アーモンドを入れる
- ⑤耐熱食器に移し、ぎゅっと押し付ける
- ⑥卵を溶いて牛乳と混ぜ、耐熱食器のベースの上にかける
- ⑦ローレルもしくはスイートバジルを乗せる
- ⑧残りのパン粉10gとガラムマサラを振りかける
- ⑨180℃のオーブンに入れて20分くらい、卵が焼けるまで様子を見ながら焼く
- ⑩出してソースをかける



ボボティ

ミニ・フォトサロン

本記事内で紹介しきれなかった写真を紹介します。



収録当日の発声練習の様子です。

世界をまなぼう！
グローバルサマーセミナー

カメラの前で演技をします。



編集作業も国際交流員さんがフリーソフトを使い行っています。

公式YouTubeチャンネル
「教えて！国際交流員」

慣れないソフトに、苦戦しながら頑張っています。



親子で国際交流ボウリング

小学生親子と地域在住の外国人とチームを組んでボウリングを楽しもう。

日時：令和3年1月17日(日)

午後1時～午後3時

会場：アソビックスびさい

(愛知県一宮市籠屋3-9-1)

対象：一宮市内在住の小学生とその保護者

※小学生1人に保護者1人で1組

定員：10組(抽選)

参加料：1組あたり2,000円

(2ゲーム代・貸靴代込)

申込：12月21日までに右のQRコードから



iia information

*iiaでは、協会事業を支える国際交流基金への寄付を募集しています。また、一宮市の国際交流の中心となって活躍いただく親善ボランティアも随時募集しています。詳しくはiia事務局までお問い合わせください。

iia Facebookページ

イベントのお知らせや、外国人のみなさんに役立つ情報を多言語で発信しています。Multilingual posts about event notices and helpful information for foreign residents.



～公式YouTubeチャンネル・今後の投稿動画の紹介～

今後、以下の動画を投稿予定ですので、右下のQRコードから、ぜひチャンネル登録をお願いします。

令和3年1月30日頃

【フレンドシップフェスティバル_オンライン】

今年の9月に実施予定だった「フレンドシップフェスティバル」ステージの、オンライン版です。友好都市トレビーズ市の紹介動画や、イタリア人アーティストの演奏動画を投稿します。

令和3年2月19日頃

【イタリア語、どこで生まれたの?】

ラテン語やギリシャ語から形を変えた、現代のイタリア語成立の過程を説明します。その他、広くイタリア語に興味がある方向けの入門講座となっています。自己紹介や、簡単なフレーズも覚えてみましょう。

令和3年2月19日頃

【ニュージーランド絵本の読み聞かせ～自然界に飛び込もう!～】

絵本を通じてニュージーランドの自然界、特にニュージーランド特有の生き物を紹介します。

読み聞かせは英語と日本語で行います。

※内容は予告なく変更する場合があります。



手作りの味が毎晩楽しめました。こんなに楽しんで、家族全員分で一泊1万5千円以下！大変お得です。

一歩外に出ると、そこは、バリ島の別世界。ヒンズー教の祭壇が家の敷地に祭られ、鶏たちは道端を闊歩し、子どもたちは新しい自転車で走り回っていました。

ステイケーション(滞在型バカンス) 家を借り1か月間住む夏休み

野田 さえ子

子どもたちが小学生の頃、我が家の夏休みの楽しみ方は、海外でお気に入りの家を一軒丸ごと借り、1か月ほど長期に住むことでした。その地域の人々との会話を楽しんだり、暮らしぶりを観察したり、食文化から産業まで現地の文化や歴史に、まるごとどっぷりつかり、そして、ゆったりと楽しむ。子どもたちをこうした異世界へ連れていき、異文化体験そのものを楽しんだのです。

2012年に住みたい！と思った町は、インドネシアのバリ島です。伝統工芸や舞踊の中心地として知られるウブドという町でした。王宮や市場にも近い場所にある一軒のお家を借りました。当地独特の木々や花々に囲まれた大きな庭がりビングからつながり、バリ島の動物たちも家の中にやってくる、素敵なお家でした。夜には、ゲッコー(大きなヤモリ)が鳴き声で歓迎してくれました。



バリ島で借りた一軒家 広い庭とリビング

インドネシアで有名なサテという焼き鳥(ピーナツソース)や、ナシゴレン(焼きめし)など、

ここのお家の良いところは、近所に管理人さん一家が住み込んでいて、お掃除から、お洗濯、そして、朝食夕食も頼めば作ってもらえる所。



バリ島 ケチャの調べと「ラーマーヤナ」の舞踏

夜になると、家族でぶらぶら散策しながら、近所の寺で開催される、ケチャのダンスを鑑賞しました。古代インドの大抒情

詩「ラーマーヤナ」を題材とした舞踏の流れとともに「チャツ、チャツ、チャツ」という発声のみで音楽が奏でられる、あの音楽の教科書にも載るバリ島独特の合唱です。

こんなに長く住むと、現地の人たちとの交流も深まります。道をぶらぶら歩いていたら、近所に住む女子高生に声をかけられました。どうやら、学校の宿題で、外国人観光客の日常生活についてのアンケート調査をしているとか。子どもたちを始め、それぞれの意見をとりまとめていました。彼女は、将来、外国人観光客のいるようなお洒落なホテルの支配人を目指しているとか。現在も、フェイスブックで彼女とつながっています。

新型コロナウイルスの影響により、夏休みの過ごし方も大きく様変わりしなければなりません。今後は、ワクチンや治療薬の普及によって、少しずつ国境が開いてくるかと思えます。家を借りて、そこに住む暮らし。これなら、ホテル滞在ではない、「三密」を回避した新たな海外観光が楽しめそうです。我が家も、体制が整ったら、また、ステイケーションを楽しみたいと思います。

編集後記

娘が出産のため、実家に5才の子どもを連れて帰省していました。コロナ禍に、その孫がマトリューシカ(ロシアの民芸品で、中から次々と小さい人形が出てくる入れ子型の人形)で遊んでいたのですが、随分離して並べているので、「どうしてそんなに離して並べるの?」と聞いたら「ソーシャルディスタンス」と言っていました。ステイホームで子どもの遊びにもすっかり根付いた「ソーシャルディスタンス」。次はどんな新しい言葉が孫から出て来るのかドキドキです。(みかん)

発行 一宮市国際交流協会 (〒491-8501 一宮市本町2-5-6 一宮市生涯学習課内)

ご意見・ご感想お待ちしております 【TEL:0586-85-7076 E-mail:kokusai@city.ichinomiya.lg.jp】

当協会に関する情報はウェブサイト・Facebookページもご覧ください

【WEB:<https://www.city.ichinomiya.aichi.jp/iia/> Facebook:<https://www.facebook.com/iia138>】

*この「かけはし」は、協会ボランティアにより取材・編集されています。

みなさんも国際交流協会親善ボランティアに参加しませんか?お気軽にお問い合わせください。